增補考古畫譜

卷四

増補考古畫譜卷四

黒川春村原稿
古川躬行纂輯
黒川真頼増補

幾部

補 京極御幸の圖

補 古畫類聚目録云。京極御幸圖。筆者不詳

補 忠寶曰。晴川院養信曰。駒競行幸の圖あり。榮花物語と合ふ

行幸繪

看聞御記云。永享六年。十月廿五日自内裏繪六卷被下。御室被進行幸。賀茂祭。檢非違使。檢斷等繪也。云々

補 宮城古圖

補 真賴曰院宮及私第圖といふものあり宮室圖と參觀をべきものなりなほ御部は掲げなり就て見るべし

補 圖畫一覽上卷云好古小録云延曆遷都之制也
國朝書目云宮城古圖一鋪宮城圖醍醐水本坊呼傳一鋪
宮城十分□圖一布
補 本朝畫圖品目云宮城圖延曆遷都之製
宮室圖　四卷
裏松入道固禪輯
補 真賴曰宮室圖四卷摹本博物館ゐあり
仝　二卷
同圖異本松平定信入道樂翁藏本
補 真賴曰宮室圖二卷摹本博物館ゐあり
仝　五卷
同着色圖
補 真賴曰宮室圖五卷摹本博物館ゐあり

補 北野天滿宮繪曼陀羅
補 圖畫一覽上卷云北野天滿宮繪曼陀羅畫兎信
補 可爲曰今在于本宮
補 魚藍觀音の像
補 倭錦云宅磨松溪魚藍觀音印アリ
補 近代年中行事繪　五卷
補 摹本博物館ゐあり四方拜小朝拜節會木造始千秋萬歲猿舞北陣白馬節會踏歌節會三毬打鶴庖丁舞御覽御樂初鬪鷄日光奉幣陣儀菖蒲輿御田植清秡花扇御燈籠石清水臨時祭賀茂祭八朔獻馬例幣發遣新嘗祭豐明節會賀茂臨時祭御神樂神供調進朝餉御能
補 真賴曰畫工不詳呼謂四條風なるものあり

北野社内陣衝立障子畫

傳云巨勢弘高筆

裏書云光明院建武四年丁丑年二月廿五日八島

龜女脩補之

補倭錦云巨勢弘高北野神寶衝立延年舞

躬行日後醍醐天皇の丁丑ハ延元元年なるを

當時かゝる混淆の稱呼もありしなこそ此繪

一座ハ神樂東遊等の倭舞一座ハ左右のから

舞を畫きさり古色ふゝて能畫なるとも弘高

ふハ非ざるべし但絹本あり

補 真賴曰光明天皇ハ建武の号を用ゐて建武五年ゐ至りて改元して曆應といへり之を何ぞ混淆といえむ

吉備大臣繪　一卷

看聞御記云嘉吉元年二月廿六日抑若州松永庄

八幡宮ニ有繪云々浄喜申之間社家へ被仰テ借

見今日到來四卷彦火々出見尊繪二卷吉備大臣

繪一卷伴大納言繪一卷金岡筆云々詞之端破損

不見古弊繪也然而殊勝也禁裡爲入見參召上了

仝入唐繪詞　二卷

好古小録云畫光長詞卜部兼好下卷逸

畫圖品類云忠憲曰此物語いと古きものゝゝて

今昔物語の筆勢の如し繪ハ光長といひ傳ふ詞

書の筆者雅經卿ゝてもあるべ〳〵

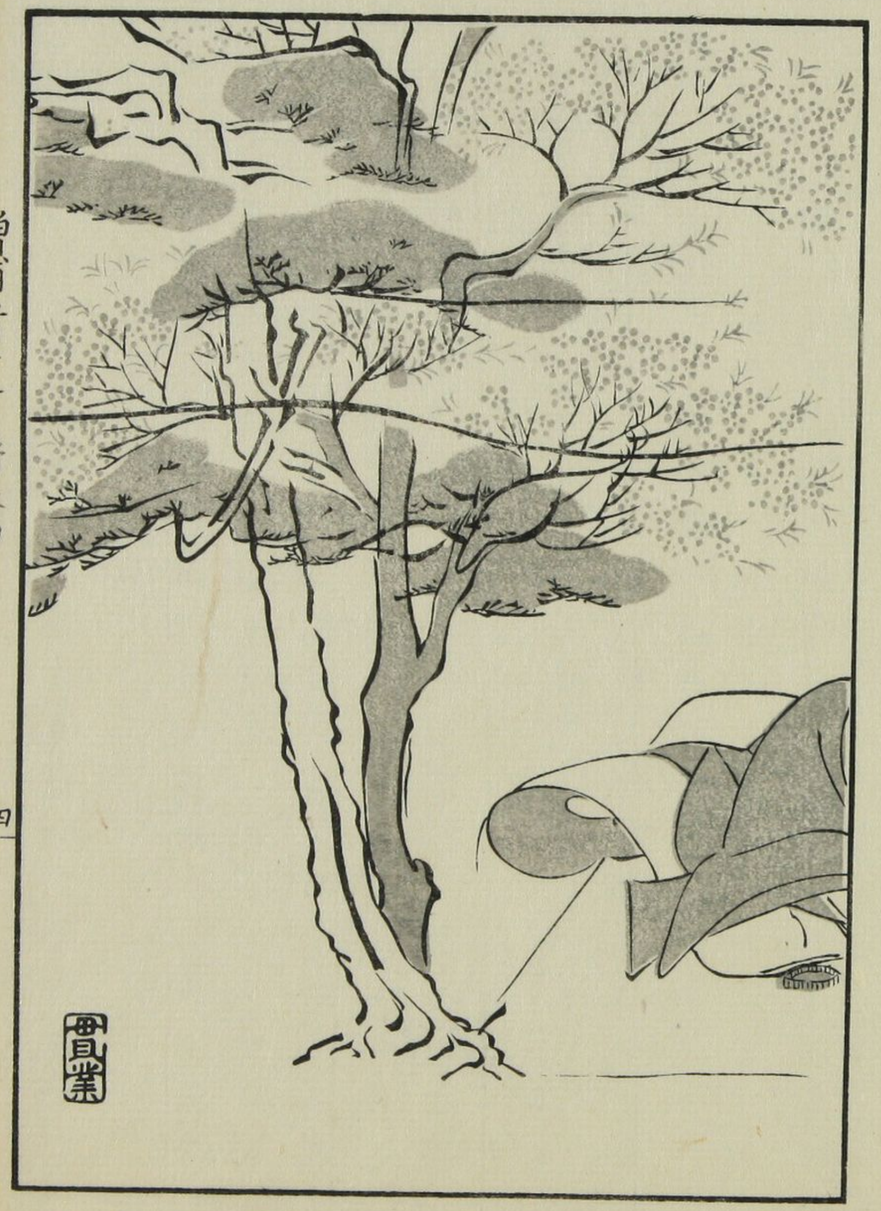
倭錦云春日光長吉備公入唐草子詞雅經卿

補古畫目録云吉備公入唐草子二卷

補異本土佐系圖云刑部大輔光長頭注云吉備公

入唐之圖伴大納言善男燒應天門之筆者俱傳寫

在家



吉備大臣入唐繪詞

所藏不詳摹本
在博物館

補本朝畫圖品目云吉備公入唐繪詞二卷今下卷逸畫光長書ト部兼好

補真頼曰吉備大臣入唐繪詞或ハ吉備公行狀圖繪ともいへり。この上巻一卷摸本住吉家ゟあり。予こゝを見る。阿部仲麿の霊の鬼とあり て。吉備公の才藝をたもくる事をゑがけり。光廣卿の奥書ありて。兼好法師真跡あるよしを記せり。志うれとも兼好法師あらぬこゝとハ。先達のいへるうごとくあるべし。畫ハ甚見ごとあるものあり。或云吉備入唐繪詞の。光長の繪のけるものハ。今ハ酒井若狹守家まあるといへり。尋ぬべし

躬行按ゟ。光長ハ承安頃の人。兼好ハ。觀應元年二月十五日。六十八才寂せるよし。園大曆ゟみえて。後ゟ、事稍百年ゟ近ゟるべけゝバ。小録の説時代不合といふべし。雅經卿承久三年三月十一日五十二才薨ぜらゝれバ。是もまゝ。光長ゟハ後ゝたるべし

仝入唐圖　殘缺

好古小録云吉備公入唐圖殘缺畫工姓名不傳畫法似新豊折臂翁神采愛スベク古色掬スベシ

補本朝畫圖品目云吉備公圖殘缺畫者不傳

義經記　或稱牛若物語

倭錦云義政公義經記殘缺

仝　殘缺

同書云土佐光重義經記切

仝

同書云。住吉如慶。義經記

仝　十一卷

本朝畫圖品目云。義經記十一卷友雪

仝　小扇面

刑部大輔光信女千代筆

木曾物語　三卷

本朝畫圖品目云。木曾物語三卷。廣通

倭錦云。住吉如慶。木曾物語

義湘元曉繪詞　一卷

寺社寶物展閲目録（高山寺條）云。義湘元曉繪

高山寺聖教目録云。第一百一合義湘元曉繪云々。

卷尾云。是ハ華嚴宗の祖師の繪あり。きさなき處

ふかきて御覽ずべくらんば。まさ狼藉の繪ゐ入ませらるべくらんも。（繪廿一紙詞二紙）

圃真賴曰。義湘元曉繪詞ハ華嚴緣起のことあり。華嚴緣起ハ今存せるもの六卷あり。さるを義湘元曉繪詞一卷とあるハ誤あり。委〻くハけノ部を見るべし

乞寺緣起　一卷　或乞寶寺緣起

皇朝名畫拾彙云。藤原伊久畫。於泉州堺浦乞寶寺緣起。其卷末記云。詞書正二位行權中納言兼春宮大夫臣源朝臣。于時貞和三年八月日。繪所正五位下加賀守藤原伊久書之。（按公卿補任。貞和三年源相卿正三位宗明卿。而並非正二位也。又此時藤原實春卿爲春宮大夫。藤原冬通卿爲權大夫。源氏之人未嘗任大夫。皆不合與補任猶俟後考）

躬行曰。乙寺ハ越後國ゐあり古今著聞集巻第
廿ゐみゑたり。今此縁起を閲するゐ。高倉院安
元二年丙申越後國ゑ城太郎助長といふものゑ
あり。其伯父ゐ宮禪師といふ聖あり云々。今此
きのと寺。松原のうちゐいゐりを結ひ。とぼそ
をとちて。修練觀行功をつむ云々とありて。越
後國ゐる事論ゐきを。拾彙ゐ和泉國堺浦とせ
るハ。成徳ゲ失考ゐらむ。まゑ奥書ゑ加賀守惟
久とあるハ飛彈守惟久同人ゐる事。貞和の年
號もてさだゐ知らるゝ。此巻水野土佐守
所藏。近時摹勒して丹鶴叢書中ゐをさむ。續群
書類從第八百十五。有越後國乙寶寺縁起一巻
補 真頼曰。摹本博物館ゐあり。巻尾ゐ記して云。

右乙寺縁起二巻。初段の詞書あらひ落して。料
紙ぬのりのこりたれど。何れの寺の縁起とも
わゐぢ。うりものゐいでけるを。濱松矦去々年
ゑとめらるしゲ。又さしつゞき。古き横本もう
り物ゐ出てけり。そゑゐハ初段の詞書あり。さ
てこを乙寺の縁起ゐることハ志らるしゐバ。
二巻とゑゐ藏せらる。天保十三年七月借參ら
せて。九月摸寫ゐ畢りぬ。會心齋と見えゐり
補 乙寺縁起　一巻
補 濱松矦藏
補 奥書云。于時天文九年庚子卯月廿一日書畢。乙
第八代住快敬。五十七歳
補 真頼曰。摹本博物館ゐあり。巻末ゐ云。右乙寺

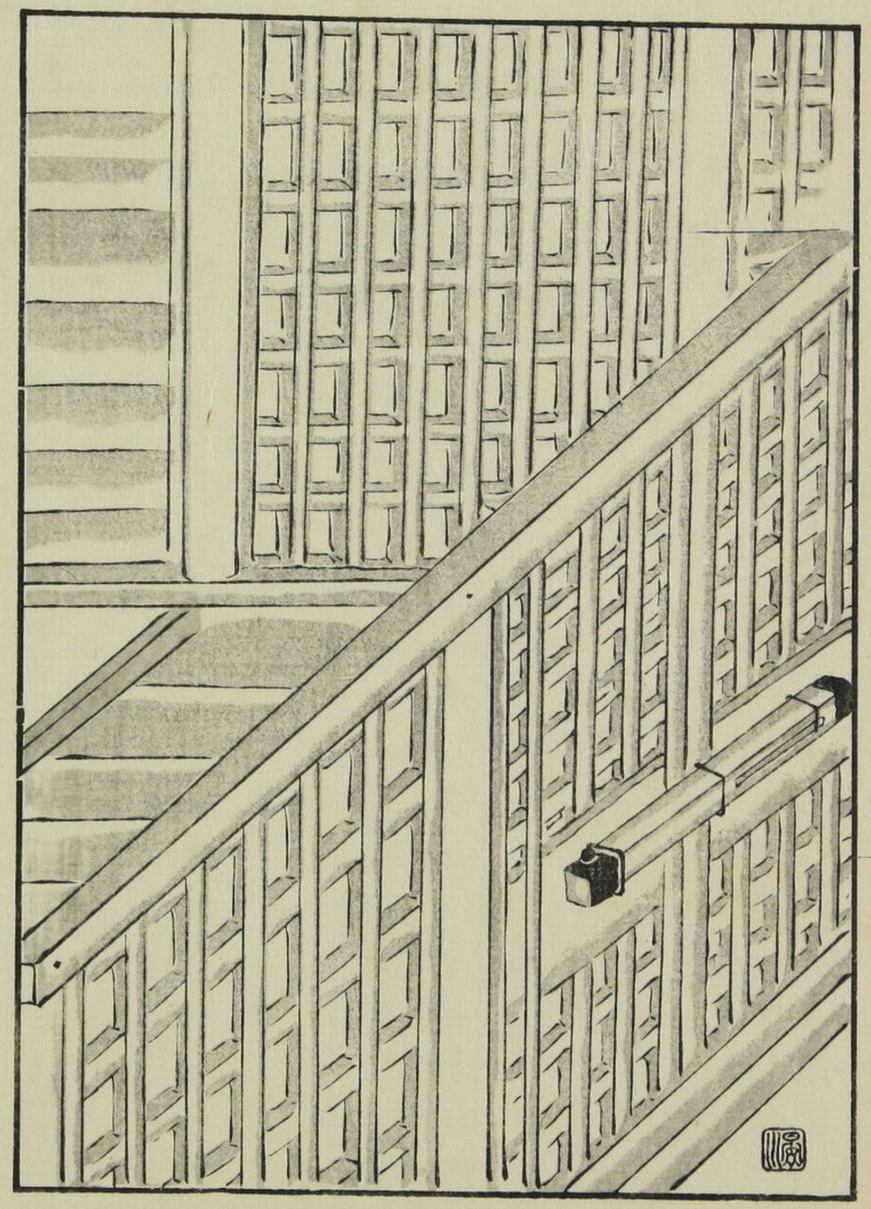
緣起古寫本一卷。濱松侯藏あり。繪ハ拙筆なれ
ばうつさゞ。詞書校正のためうつさしむ。天保
十三年九月。會心齋と見えさり。真賴二本を比
校せるゆ。筆者ハ異なれとも。文ハ同文なり。

清水寺緣起　三卷

補本朝畫圖品目云。清水寺緣起三卷。畫光信。書公
卿寄合書古畫類聚目錄。土佐系圖頭注。古畫目錄。とあるに
畫刑部大輔光信。詞書上卷近衛關白尚通公。中御
門大納言宣胤卿。中卷三條西内大臣實隆公。東山
左大臣義政公。下卷三條太政大臣實香公。甘露寺
大納言元長卿
好古小錄云。二卷畫光信。詞當時公卿集書
倭錦云。土佐光信清水寺緣起詞四筆

宣胤卿記云。永正十四年五月廿五日新亞相被來。
清水寺緣記繪詞余清書事懇望。同年九月十七日
清水寺緣起繪詞余清書三十三段内五段分遣甘
亞相。依彼卿傳達也。繪土佐刑部大輔光信朝臣書
之云々

補山州名跡志卷三云。清水寺云云。當時緣起ノ圖
畫ハ。土佐光信。詞書ハ公卿六人ノ手跡也。在執行文庫
貫雄曰。此緣起三卷。光信老後之作也
躬行曰。小錄ゆ二卷とし。倭錦ゆ詞四筆とする
ゆの皆誤なり。此卷古筆了博所藏。後爲東條某
藏。明治八年爲官物。置博物館
補真賴曰。清水寺緣起三卷。原本并摹本博物館
ゆあり。原本每卷々尾ゆ。古筆了伴鑑定書あり



清水寺縁起
博物館藏

補 又曰。原本ハ既ニ缺たる所も。摹本ニハ全圖あり

仝刊本　三卷

末記云。阪上末孫。東山清水寺別當僧都覺源。頽齡八十三誌之

追加奥書云。建久元年三月十八日。清水寺別當僧正覺真記焉

續追加奥書云。寛文三癸卯年仲春吉辰。執筆武藤西察

躬行按ハ。此刊本追加ニ建久の年號あるバ。原本ハことゝ古ゝるべけるバ。今の永正の縁起ハ。別本ならん。但羣書類從第四百三十。大學頭明衡朝臣。清水寺縁起同續第七百七十二亦有清水寺縁起。又漢文縁起一卷在于世上

行基菩薩縁起　一卷

倭錦云。巨勢有家行基縁起

補 真頼曰。東大寺寶物目録云。行基菩薩縁起二卷と見えたり。予この本書を見ず。繪詞ありや。いかやをならば。今こゝに揚げて後人の說をまつ

補 教信寺縁起

補 畫工便覽卷二云。藤光定官大納言。不知何許人。工畫圖繪。筆力佳作。和州教信寺縁起筆。奥書官名

補 皇朝名畫拾彙卷一云。藤原光定善圖繪。康平中畫和州教信寺縁起。時爲大納言。見其奥書○按公卿補任。康平之時無光定者。嘉平年間有定光任參

議豈其人耶

補 真頼曰嘉平といへる年號ゐし

補 北野天滿宮縁起　四巻

補 本朝畫圖品目云北野天滿宮縁起四巻

補 真頼曰北野天滿宮縁起四巻とあるハいゐ
ゝ三巻なるべし委しくハてノ部ふ出せり就
て見るべし

補 政矩曰今北野社ゟ縁起四種あり皆北野縁
起と稱ゐ

補 北野縁起　三巻

補 前田利嗣藏

補 畫工不詳詞書筆者為重卿

補 北野縁起殘缺　一巻

補 行光筆博物館藏

狂僧雙紙　一巻或云氣違雙紙

補 本朝畫圖品目云狂僧草子一巻畫光信

好古小録云畫刑部大輔光信
貫雄曰狂僧雙紙氣違草子と一物二名あり畫
工光信ともるハ誤あらん

補 仝

補 倭錦云土佐寂濟氣違草子

補 北野大茶湯の記

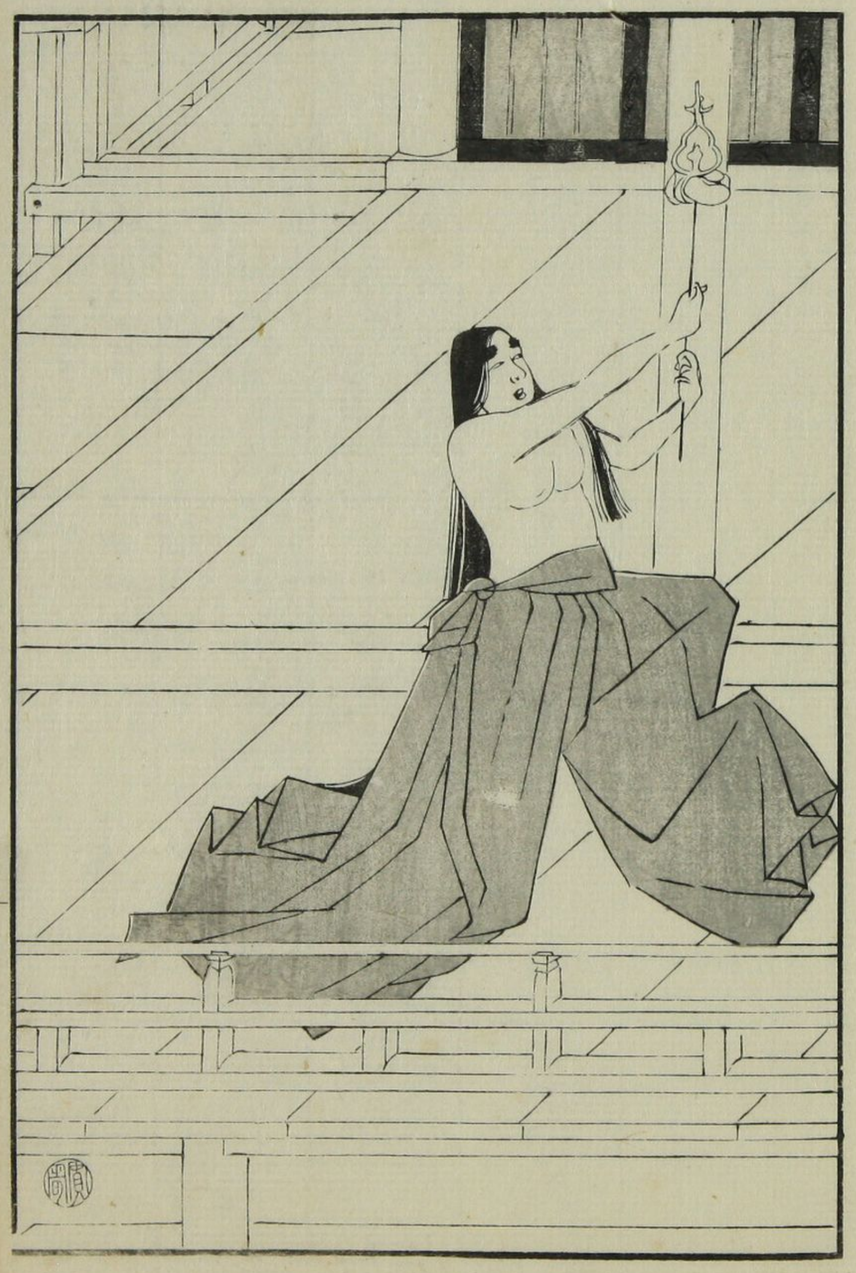
補 燕石雜志巻四云北野大茶湯記

狐物語　一巻

補 古畫目録云狐物語繪光信

補 本朝畫圖品目云狐雙紙一巻

北野縁起
博物館藏



補 真賴曰狐草紙一卷原水戸之家を見る卷末ふ住吉廣通の紙中極書あり光信とあるなり

古畫類聚目錄云光信筆
倭錦云土佐光信狐草子
貫雄曰住吉家藏詞書筆者古筆了伴爲飛鳥井
雅春卿檜山成德爲甘露寺親長卿

狐繪　二卷

言繼卿記云天文十一年正月廿二日内侍所へ罷
向云々狐繪見度由女房衆申候間二卷借遣了

補 狐ふたぶらかさるゝ春畫

補 花月帖云狐ふたぶらかさるゝ春畫豊後國伊
東某所藏之古畫也

補 真賴曰狐三ツ居りて男をたぶらかしたる
圖あり男ハ裸體ふて烏帽子を着るより

京極殿山石圖　一卷

畫工姓名不傳每段有頭書及御厨子所預紀宗恒
奥書
元幹曰洛東于菜寺藏本有詞書卷數倍之傳云
豊太閤命貶近諸士所令作云

九相圖　一卷

尾張國智多郡内海寶樹院所藏傳云光信筆
元幹曰長七寸許之小卷也原所摹漢畫歟傳聞
九相者東坡所製
躬行曰九相ハ佛説あり相當作想法界次第曰
一張想二懐想三血塗漫想四膿爛想五青瘀想
六噉想七散想八骨想九燒想能轉心轉想故爲
想矣まゝ智度論摩訶止觀等ふ委譯あり九相
ハ東坡の所製るあらず

補 真賴曰。遍照發揮性靈集卷十ゟ九相の詩あり

仝　一卷

本朝畫圖品目云。六波羅焰魔堂藏筆者不知

補 元榦曰。異本九想圖開卷第一。美少女蘭花ヲ持ツ圖アリテ。一尺一寸許ノ卷子也

補 仝

補 皇朝名畫拾彙云。夢窻國師疎石云云。手畫九相圖獨坐觀行記

補 三國傳記卷四云。夢窻正覺師ト申ハ云々聰敏上智而勤學無倦釋典乃至孔孟莊老敎及世間伎藝才能皆以其奥旨究自死屍九想圖繪自他壞身觀云々

補 夢想國師年譜云。伏見天皇正應元年戊子。師自繪九想圖掛之壁上。恒對觀之。既熟自周視其身無非骸骨。又觀他人亦如死屍

補 春村按ゑ。是の歳國師年十四ゟ

補 仝

補 畫工便覽卷四云。古岳和尚名宗亙。大德寺實傳宗真弟子。悟道發明而長手跡。亦好繪。常畫佛祖及九想死躰十牛圖。共賛之

補 九相十界の圖

補 本朝畫圖品目云。九相十界圖。十五幅。修理亮光秀畫。江州坂本來迎寺什

補 真賴曰。此の圖の事十界圖のところゟいふ就てみるべし

補 騎馬の圖

補 國朝書目云。騎馬圖一卷

補 元幹曰。隨身庭騎圖の事歟

補 經文の意の繪

補 榮花物語駒くらべ巻云。中宮さとよりおもしまさバ。うちより。とく〳〵いらせ給ふべきよし御せうそこさ〳〵なりぬきバ。と〳〵ころ多寶の御塔を一尺ばかりまつくりみぎたてさせ給て。やゞて御ぢぶつおとおゞしおきてさせ給へりける。いでき給へりけれバ。このくやうせさせ給ハんとてその御いそきなりけり女バらのありどもゝいのこゝろもなれど。のゝ志る萬壽元年九月廿三日よりそゞめさせ給て。五日懺法御讀經より僧正ハやまのざゝさてハのうし十人を。かゝへハそうがう。かさへハぼんそうあり。五日のほどおぼ〳〵おきてさせ給へる御こゝろのぼとゝいとめでゝ〳〵。云云〳〵きしの御きやう。志ゝ名かゝせ給へり。ひやうしのゝ名まきやうのうちのゝゝろぢへを。みなかゝせ給へり。大進よりつゝみハいゝ〳〵きさいくのこゝろまいをてをつくしてつゝまつらむゝどいゝしうめでたし

補 仝

補 畫工便覽巻三云。釋源空號法然上人。常圖繪彌陀及觀音勢至像。又畫經意精器不少

補 祇園精舍繪

補 天聽集云。天文四年十二月廿三日。故清法印令圖天竺之祇園精舍之畫。見之懸畫也。可野筆歟

補 御遊の繪の屏風

補 宣胤卿記云、永正十四年十一月廿七日太平記四十冊今日一見早、此内第四卷ニ宣明卿奉預ル後醍醐院四宮ハ歳事、當流ノ面目也、其段（元弘二年壬申）詞多呀書抜別紙也、又寶篋院殿（義詮）御上洛之時、御借住同卿宿所、彼卿御分明也、太平記無此事、可謂無念、彼御記應仁亂紛失、彼私宅者至余居住、應仁亂燒失了、八代之舊宅也、令切妖者給御太刀之切目有シ、又今所持之屏風和哥并御遊等繪、其年号不審之處、太平記第四十卷、貞治六年三月廿九日、中殿御會人數等分明也、此屏風其時節物歟古物也、（先年於山門感得之）繪ハ當時繪所光信朝臣先祖光行書之由、光信朝臣先年稱之、詩歌者爲秀卿手跡歟之由、爲廣卿演説之爲秀卿ハ貞治之御人數也、此中殿御會此度以後無之

補 切形花鳥

補 倭錦云、粟田口隆光、切形花鳥

補 鬼魅の像

補 畫工便覽上卷云、釋空海弟弘法大師令繫書畫妙所圖六道相及人物雷風二神鬼魅等者、以玉眼濃細非所及言舌

吉士長丹像　二幀

近江國吳神社所傳畫工姓名缺

補 眞賴曰、此の像薄萌黄色の冠、同卜色の袍を着し、薄花田の袴を着さり、又笏をもてり、冠ハ髻華（りくは）をつけるり

補 貞丈曰吳社蓋所祭吳長丹也故其祠藏此畫像今蒲生郡野部村寺澤氏有摹本又曰此圖爲小山上大唐大使之像也

補 守重曰案日本紀二十五孝德天皇（人皇三十七代也至天明七年千百三十五年也）白雉四年夏五月辛亥朔壬戌發遣大唐大使小山上吉士長丹副使小乙上吉駒（駒更名系）學問僧道嚴道通道光惠施覺勝弁正惠照僧忍知聰道照定惠（定惠內大臣之長子也）安達（安達中臣渠每連之子）道觀（道觀春日粟田臣百濟之子）學生巨勢臣藥（藥豐足臣之子）氷連老人（老人真玉之子或本以學問僧知弁百二義德學生坂合部連磐積而增焉）十一人俱乘一船以室原首御田爲送使云云白雉五年秋七月甲戌朔丁酉西海使吉士長丹等共百濟新羅遣使泊于筑紫是月詔褒美西海使等奉對唐國天子多得文書寶物授小山上大使吉士長丹以小華下賜封二百戸賜姓爲吳氏授小乙下副使吉士駒以小山上

補 勝賢曰按此封二百戸ハ近江國吳村也則後世祀吳社云

躬行曰袍色緑朱の二樣あり朱ハ昇進の像なるべく冠ハ髻華あり衣冠の古しへを考ふべし但此社不載神名式

補 仝

補 博物館ハ摹本あり

補 真賴曰此像もべて前の圖と異なることなしさゞ萌黄の冠袍と淺緋の冠袍と異なるのミなり

補 貞丈曰。此圖二枚共左近將監巨勢忠久所畫云。忠久者金岡之子孫歟。未詳又曰此圖。小華下歸朝後昇階賜封之像也

補 清盛公像

補 集古十種 肖像部 云。平清盛公像。攝津國築島寺藏

補 古畫類聚目錄云。平相國像。攝津國築島寺藏

補 真賴曰。甲冑を着して扇をもてり

補 仝

補 本朝畫圖品目云。平清盛公像日向國某寺藏

補 行基菩薩像 一幀

補 大和國唐招提寺藏。備中法眼幸守筆

畫裏書云。文永八年四月。備中法眼幸守筆。河州生間竹林寺什寶也。延文二年六月修補。康正三年二月重補

補 兼文曰。此の畫絹本なり。像のうしろは三屏あり

補 行圓像

補 集古十種 肖像部 云。行圓像。久米多寺藏

補 真賴曰。倚子より念珠を手にかけり

補 九峯和尚像

補 天陰語錄 賛部 云。前天龍九峯大和尚肖像讃 註云 右東山春谷葩公藏。侍前天龍九峯大和尚巾匿者久矣。執筆自寫之。十分相似。就余需題其上。余已作大和尚賛語者數百字。今又何言哉。卒賦一偈云云

補 記主禪師像 一幀

補 鎌倉光明寺藏絹本 一幀

補 公條公法躰像

補 嵯峨二尊院藏絹本畫工不詳。摹本博物館ふあり

補 真賴曰。座像ふて右手ふ三鈷を持。左手ふは珠數をもてり。畫上ふ讃辭あり

補 清輔朝臣像

補 摹本博物館ふあり。御室粉本と記せり畫工不詳

補 真賴曰。烏帽子狩衣を着さる像ふり

久部

熊野本宮神寶圖 一卷

國朝書目云。熊野本宮神寶圖一卷

畫圖品類云。二卷

同新宮神寶圖 一卷

國朝書目云。同新宮神寶圖一卷

一本跋云。右幸得拜見之便宜。爲後勘所録如件。享保十九年十月日宇治田忠郷。紀藩人 寛政元年閏六月山城藤原以文

熊野曼荼羅 一幀

寺社寶物展閲目録 高山寺 條云。明惠上人筆。熊野曼陀羅

補 元興寺曼荼羅 一幀

補所藏不詳畫工不詳

補真賴曰元興寺の金堂大塔をはじめ僧房諸門を彩色ゆゑなりけるものあり摹本博物館なり畫樣ふるく見ゆ

補九補曼荼羅

補弘鑁口說云清瀧權現大師御歸朝時有御同船筑紫御着岸有之中略又九補ノマンタラ御筆ニテ有之大唐ニテ被寫禪福寺ノ万タラ

補九品曼荼羅

補長秋記云天承元年七月八日鳥羽殿跡御堂供養也中略七間四面廂御堂也中央一間有柱繪有螺鈿佛檀安置半丈六彌陀等身二菩薩像佛後圖九品曼陀羅繪像佛師知順筆云云其北面圖補陀羅山賴俊筆云云

補九品淨土の圖

補圖畫一覽下卷云平等院金堂九品淨土圖畫繪師長者為成色紙形堀川俊房公

補九品往生の圖

補攝陽群談卷十二云貞應三年甲申始自去冬三春孟夏之間以繪師法眼尊智守本樣依傳文圖繪既訖今於西面更畫作九品往生人殊勸進一乘淨土之業表裏共不交他筆尊智圖之以詩歌形其心詩句九品同令營大府卿為長作之和歌承相以下廣勸九人各詠一首復當南北裏同畫四天像此堂大僧正行慶寺務之間顛倒之後以聖靈院禮堂東廂為其所今新建立于舊跡彰興隆之本意也別當前

大僧正法印大和尚位慈圓記之云云

補 真頼曰。九品往生の圖ハ。九品浄土の繪とか
あ〳〵らゝをへの繪をゝべし。九品浄土の繪
ハ上文ゝ掲げたり

熊野縁起

畫圖品類云。豊後國農家藏或云十二巻
千春曰。熊野縁起松平能登守預所。農所藏と。其
餘詳ならぞ

鞍馬寺縁起　一幅

倭錦云。土佐經隆鞍馬縁起
土佐系圖云。經隆從五位下中務大輔土佐権守畫鞍馬山縁起。至
今在山
元幹曰。此縁起所々貼紺紙短策以金泥識其由

來。文化中本山火災之時燒失了。可惜哉

同　三巻

好古小録云。鞍馬寺縁起三巻。畫狩野元信。詞尊應
准后。永正十年癸酉六月。右京大夫源高國跋之

補 本朝畫圖品目云。鞍馬寺縁起三巻。畫狩野元信。
詞尊應准后

補 春村曰。橘寛自語云。永正十年任尊天御闔。新
開畫圖之由。奥書ニ見エタレドモ。サノミ採用
スベキ事モ見エズ。一幅ノ古縁起ニハ比校ス
ベキモノニ非ス。又第三巻詞書ニ。敎兜法師ト
云地相者ノ〻ミエタリ。今時家地ヲ相スル者
鞍馬山ヲ吉相トサタセレヲ思ヒ合スルニ。此
敎兜法師。カ子テ地相セシ〻シルベシ

光明真言繪詞　三巻

畫圖品目云。畫住吉豊後法橋詞權中納言為重卿

畫圖品類。柳巻隨筆同之

躬行曰。為重卿。延文頃の人あり。豊後法橋ハ履歴詳ならぬ。倭錦ハ康安中の人とも。是よりも古ハ時代ハあへり。叡山願海藏之

補 信充曰。詞為重卿。畫住吉豊後法橋

光明寺開山繪傳

皇朝名畫拾彙云。光興。相傳土佐家祖。然畫系不載。無知其詳。鎌倉光明寺開山繪傳。某所筆云

光明寺縁起　一巻

倭錦云。住吉如慶光明寺縁起巻物

躬行曰。光明寺在山城國。淨土宗鎮西流四本寺之一也

黒谷縁起

書畫筆者未詳

遠碧軒記云。秋田屋庄吉ニアリ。見事成モノ也

春村曰。此縁起ハ黒谷上人傳。世ニ九巻傳といふものゝ。淨家の撰成べし。拾遺古德傳の一本ゝ。黒谷傳といふあり

空海記　殘闕

倭錦云。土佐吉光。空海記殘闕

古畫類聚目録云。空海雙紙畫不註畫工

補 廣隆寺繪傳　四幅

補 寺社寶物展閲目録云。光信筆

補 廣行曰。光信ハ非らぬといへども畫品よろ

廣隆寺縁起

寺社寶物展閲目録廣隆寺条云。寺僧謂。繪法眼具慶。詞醍醐聖雲僧正

補廣行曰。具慶ゆあらば　五巻

補元三大師縁起

補寛永寺藏。畫住吉具慶。詞。亂海僧正

補貫義曰。明治元年五月の亂る散佚を惜むべし

補真賴曰。予明治十五年六月。此の縁起の數寸の殘片數葉を見る

勸修寺縁起

畫。刑部大輔光信

元長卿記云。永正四年閏四月四日。勸修寺縁起之繪出来。光信持來祝着

躬行曰。甘露寺元長卿記ゆ。うく識さきたれば。詞書ハ此卿の筆あるべくおもハる。甘露寺ハ勸修寺家の分派あり。但群書類從第四百三十。

釘抜念佛縁起　一巻

本朝畫圖品目云。繪狩野洞雲。探雪。常信。

奥書云。文明十三年辛丑六月。弟子沙門某謹識

右寂光寺釘抜念佛縁起。舊本書畫不ㇾ好。今改製而寄附焉。元禄五年壬申四月。當山座主第五十六世。二品親王

躬行曰。日光山志ゆ。詞ハ公辨親王御染筆。圖畫

ハ狩野常信筆とミゆ。こハ文明年間の事跡ゑして。縁起ハ元禄の製あり

補 真頼曰。日光山別所寂光寺釘抜念佛縁起一卷摹本博物館ゑあり

元興寺別院極樂坊縁起　二卷

畫西岸寺古硎。詞安井僧正道恕

跋文云。右雖有舊來之縁起。因爲蠹損。今應尊覺律師需重令深毫畢。元禄十四辛巳年仲夏穀旦。東大寺華嚴長吏二月堂別當。安井門主前大僧正道恕

躬行曰。寺在南都中院町。今稱極樂院

又曰。古硎有畫力自爲一體。不載于本朝畫史名畫拾遺。

花鳥風月繪詞　一卷

皇朝名畫拾彙云。久我廣通公母堂。作畫清婉。常畫花鳥風月繪詞一卷。詞則通前卿筆也。廣通公跋識書畫事實。此卷屋代輪池所藏也

補 同　一卷

補 羈旅漫録卷一云。名古屋ゑて見たり〻繪卷物云云花鳥風月の繪卷物壹卷。名古屋柳下亭所藏

補 真頼曰。かの部ゑ花鳥風月繪詞あり此のついでゑ載ちべきゑる

補 灌頂繪詞　一卷

補 本朝畫圖品目云。灌頂繪。刑部大輔光信畫

補 畫圖品類云。灌頂繪詞一卷

灌頂卷　一卷 或小紫垣草紙

本朝畫圖品目云。灌頂卷。畫住吉法眼慶恩詞後白

河法皇宸翰 倭錦同之

補 古畫目錄云。灌頂巻繪。住吉法眼筆。住吉藏
古畫類聚目錄云。繪住吉法眼筆
跋文云。灌頂巻一軸。後白河法皇御宸筆無疑處也
希代之重寶雲上珍也。并圖繪者住吉法眼被畫彼
是可秘

貫雄曰。此巻九條殿御藏也。但此圖詳畧の二樣
あり。詳本を灌頂巻とし。畧本を小柴垣といふ
躬行曰。住吉慶恩ハ。倭錦ハ中務少輔隆親男。光
長の弟。建仁中の人とせり。光長素より隆親の
子ハ非ず。據もるき妄説あり。土佐系圖ハハ。高
階隆兼の子とせ。隆兼ハ延慶中の人たしりあ
ゝバ。其子ハ建武已後なるべく。時世いよ〳〵
合難し。後白河法皇ハ。建久三年崩ド給へり。但
此詞書ハ。いとみざりがたしき彼の野宮の物
語ゐるを。後白河法皇の宸翰とせるハ。特ハ
確証あるハハ非ず。推案ハ過ざるべし。かゝる
不經の語をもて。至尊の宸翰とせん事。頗褻穢
無禮かしこくそおゐゆる

補 真賴曰。こノ部小柴垣草子の條見合せべし

黄帝蝦蟇圖 一巻

寛政九年。丹波元簡刻本跋云。右黄帝蝦蟇經一巻。
和氣氏奕世所傳。丙辰秋轉借自白川侍從。鈔而得
之。按隋經籍志黄帝蝦蟇志一巻。正斯書也。千載遺
編倏發幽光。宜珍惜也

九曜秘曆 一巻

醍醐僧正成賢筆（白描高山寺什）

卷末云貞應三年孟夏頃以石山本書寫了本所持少異故書之東寺沙門成賢

九條殿寢殿圖　一卷

大永甲申歲所圖也奥書云此一卷藤森祠官之所持也有子細令書寫了此兩槐門圖有異本坊城前大納言所持也追可寫件坊城本者花山院家所傳來之寫也此本元桃華坊御傳來之由也九條家御傳來之本重可申請也正二位藤原賴亂卿押

車圖　三卷

補本朝畫圖品目云車圖九條家一卷西園寺家一卷日野家一卷

國朝書目云車圖二卷同一卷同一卷

畫圖品類云車圖三卷

九條殿車圖奥書云元久三年四月賜御本寫之繪師定順外記大夫三善信成注進之

唐車奥書云承元三年十一月御春日詣之時注之躬行曰右九條西園寺兩家車圖近時摹勒在丹鶴叢書中

補元幹曰一卷八九條殿車圖一卷八西園寺殿車圖也九條殿車圖奥書云此車繪樣等自九條前關白（經教公）被借送仍寫留之彼家計躰歟至德二年十一月三日慶長第六辛丑孟夏殿下御參内之砌於御前被申書御本御退出之後則命畫工令圖之爲拙者被令寫事書之間遂其功畢宮内少輔幸綱右件之車圖者申請九條禪定殿下

圖性秘在御本。命右少將言緒頓令書寫。寔以可為後昆龜鑑矣。慶長下旬霜月下旬。前龍作特進藤判。西園寺殿車圖奥書追可記之

補 元賜又曰。此外日野家車圖一卷有之。又一卷アリ

補 真頼曰。車圖或ハ車輿圖ともいへり。九條殿車輿圖ハ摹本。博物館ハあり二卷あり

補 灌佛圖　一卷

補 畫工姓名不傳

補 貫雄曰。粉本世上ハあり。年中行事繪の零本あらむ

補 勸進聖職人歌合

補 本朝畫圖品目云。勸進聖職人歌合。天文六年已往ノモノ也

補 同頭注云。三十六番職人歌合。卽此。又云。續撰吟和歌集の歌三首アリ

菅家紅梅殿指圖　一鋪

摹刻本云。心蓮院所藏。以原圖三分之二。柏木政矩摸

補 公方家五條八幡詣繪

補 本朝畫圖品目云。公方家五條八幡詣繪

補 古畫類聚目錄云。鹿苑院殿五條八幡參詣圖

補 火中の女の圖

補 大和物語云五條のごといふ人ありけり。をとこのえとまわがいたをゐまるきて。女のをゐたるゐさをゐきて。にふりいとおほくくゆらせて。かくゐんかきたりける　君をおもひあまし

し身をやくとたハ烟おほゝるものゝそありける

補 観音品の偈の繪

補 榮花物語鳥の舞云。たゝのあく過て六月ゝもかゝ
るぬきバ。廿六日ゝの藥師堂のくやう。例のこと
ゞもえもいたぎめでたし。御堂の御ありさまなど
いのめもゝゞやゝきていゝゝ見ゝきゝさし
おほ宮とのゝうへとぞおたしまを御つぼねこ
の御堂の北のゝたゝよりてひさしゝみをゝけ
たり。御堂の造ぎま大坊のさまゝど西の御堂ゝ
ことゝあらぎ。やくしほとけのおまへのゝさのも
やのをしらゝハ。十二大願のこゝろを繪ゝこゝ
せ給へり。六観音のおまへのゝたの柱ゝハ。観音

品の偈のこゝろをみゝこゝせ給へり。飯室のゝ
ぎゝのてをつくし給へるほどおもひやるべし

補 光明峯寺殿四季の繪障子

補 古今著聞集巻十一云。一條前攝政殿左大臣ゝ
おをしましける時。居ゝ所をたてまつらんとて。一
條室町の御所を光明峯寺入道殿。前備中守行範
ゝ仰て修理せらゝゝ。寛元三年十月廿七日
御ゝたましゝ有けり。つくゝうどゝゝ少々あらため
られゝゝゝ。寢殿二棟の障子より。つねの唐繪ハ無
念也とて。平等院寶藏の四季の御屏風を。二條關
白殿長者ゝておをしましゝるゝ申さゝて。取出
してうつさゝにゝゝり。人々の姿もゝゝ昔繪ゝて
ぞ侍るゝゝる。いと見所あり。武德殿の競馬の所ゝ。

みもあらぬ人のそゝぐた共あるゝり。嵯峨野の御幸ゐ御輿の上ゐ虎の皮をあはひさるゝなど。始るき事共をこゝ〻さるゝいと興有。承保の野行幸ゐハ。虎の皮をバおゐたきざりゐるとゐん

[補] 楠正成千早城の圖　一幀

[補] 所藏者不詳。摹本博物館ゐあり。裏書ゐ云依太閤秀吉公命。文禄四年三月十八日。畫圖奉行増田右衛門尉長盛

[補] 觀經大意の繪

[補] 東鑑巻九云。文治五年九月十七日云云。無量光院（號新御堂）事秀衡建立之。其堂内四壁扉圖繪觀經大意云云

過去現在因果經の繪

奥書云。建長六年甲寅二月廿七日執筆了快。畫師住吉住人介法橋慶忍。并子息聖衆丸

躬行曰。故冷泉爲恭。此奥書を證として住吉慶恩ハ。慶忍の誤とせり

又曰。岡田爲恭曾て一葉を摹刻せり。巻子を平分して。上ま經の本文を記し。下ま其意をゑゞけり。予いまゞ其全巻をこゞ。

[補] 真賴曰。過去現在因果經ハ。い〻部因果經の條。見合をべし

君臺觀并御飾記　各一巻

君臺觀末記云。文明八年三月十二日能阿彌（在判）大内左京大夫殿

御飾記跋云。大略存知分慥注申候。御不審之事候

者尋可承候就口傳可申候不可有外見者也大永三年十二月吉日松雪斎鑑岳真相在判

躬行曰是ハ東山殿藏書畫及茶器又殿中床荘等之圖記なり但羣書類從第三百六十一收之共よ一巻とせり

補畫工便覧巻四云周文字等慶東福寺派僧不知安座以善繪其名冠絶當世師倣如説出新意成一家法筆力能得範超越他畫云云應永廿一年正月八日自如説授畫譜君臺觀最畫家為秘本右同

月令御屛風

江家次第四方拜條云鷄鳴掃部寮奉仕御装束於清涼殿東庭云云立御屛風八帖太宋或四帖云云不可然往年月令御屛風也近代無之

補灌頂屛風

補圖畫一覧上巻云可為日高山寺藏六曲屛風一帖

補元榦曰東寺藏目録ニ有之山水屛風一帖唐憲宗所賜ト云云目録朱書也内記方舊記ニ珍海筆ト云々珍海ハ土佐守基光門人延久中ノ人本朝畫史ニ醍醐寺珍海筆ノ文珠像アリ裏書ニ建仁二年ト云云又高雄寺ニモアリ東寺ヨリハ新物ト云云高山寺ニハ見エズ可為ノ説イカヽ

補真頼曰東寺の山水屛風と此の灌頂屛風とハ別物なるふや。まさハ東寺の山水屛風を或ハ灌頂屛風ともいひけるよや。なほ山水屛風

の條ゐいへるを見るべし。せ、部に掲ぐ

孔雀琵琶

撥面畫孔雀槽末詳伏見宮器

補 觀世音菩薩像

補 東鑑卷三云。壽永三年正月廿二日壬子。下總權守藤原爲久依召自京都參向。是豊前守爲遠三男。無雙畫圖達者也。同書云。壽永三年四月十八日丙戌依殊御願仰下下總權守爲久被奉圖繪正觀音像。爲久著束帶役之。潔齋已滿百日。今日奉始之云云。武衛又御精進讀誦觀音品給云云

補 同

補 玉海云。治承元年九月十日。此日爲僧正供養一日丈六正觀音繪像導師覺知法印。佛師賴源法眼

也

補 同

補 畫工便覽卷三云。釋源空號法然上人。常圖繪彌陀及觀音勢至像。又畫經意精器不少

補 同

補 同書云。源尊氏贈太政大臣云云。常深地藏敬伏而被令圖尊像于今相模鎌倉寶海寺秘府之。又太平記建武二年自筑紫上洛時圖繪觀音像。帆柱被令押云云

補 同

補 李瓊日録云。寛正四年七月十日雲頂院昭堂後門壁畫觀音并羅漢今晨安置之畫師鹿野性云名判又書年號月日也愚老施入之志爲後證加御新造爲御繪本。以大

智院三幅可被渡于宗湛坊之由能阿以折紙申之
仍可被使于能阿方之由以能阿折紙命于大智院
實參和尚也

補同　三十三幅

補同書云文正元年二月十日奉報東福寺御成先
入佛殿佛涅槃像前御燒香中略兆殿主所筆之觀音
三十三幅前掛唐織物打敷

補同

補新編鎌倉志卷三建長寺條云觀音畫像卅二幅啓書
記筆

補同

補畫工便覽卷三云夢窻疎石歸正覺國師建長寺
高峯顯日弟子勢州源氏宇多第九世孫母平氏善

圖繪好畫觀音像及草苑

補同

補土佐左近將監光起筆山高信離藏

補眞賴曰此の圖絹本にて白衣觀音を淡彩に
ゑがけり運筆たゑはざめでさ〳〵

補同

補倭錦云菅相丞十一面觀音畫京蘆山寺什物

補同

補同書云春日隆能十一面觀音

補同

補同書云實朝公草畫觀音

補了悅曰草畫觀音像實朝公の畫くそのあり
又二位尼政子の畫くそのあり畧相似たるも

のあり

補 同

補 同書云宅磨榮賀墨畫觀音印アリ

補 同

補 同書云宅磨松溪觀音

補 同

補 同書云巨勢相見觀音瀧アリ

補 同

補 同書云鶴洲廣夏觀音三十三身圖攝州廣智寺什物

補 同　三十三幅

補 同書云鶴洲廣夏觀音三十三身圖江府護國寺什物高松少將玄英御寄附

補 同

補 天聽集云天文四年六月十九日自武家觀音尊像自筆被進上喜悅之由以勅書謝之

補 真賴曰武家ハ足利義晴ナリ自筆ヒハ義晴の自筆ありといふなり

補 同

補 皇朝名畫拾彙卷二云平政子北條時政之女源賴朝卿室家卿薨後爲尼法名如實稱二位尼（嘉禎七年十一月朔日薨歲六十九）○假字書迹今尚傳世亦作圖畫鎌倉壽福寺釋迦像（以竹構成以紙粘造稱籠釋迦宋人陳和卿作）年世久遠頗爲壞損元祿四年欲修補之而看之中有觀音畫像廿許片每紙書日蓋日課所繪也當時狩野常信定爲平氏畫詳見大德寺天倫和尚所記今觀其摹本

筆法婉暢與書蹟同轍狩野氏之鑒爲不誤

補 真賴曰此の圖水墨ふてゐぐく草畫あり

補 同

補 京花集卷七云觀音賛慈雲院呼畫一月千波又万波白衣影落碧磐陀與君終不隔羅縠熊耳峯前老達磨

補 同 六鋪

補 本朝文粹卷十三云朱雀院平賊後被修法會願文後江相公奉圖觀音像六鋪奉寫法華經六部右奉仰云云云

求聞持像 一幀

倭錦云南都堯尊求聞持有名書

補 同

補 同書云春日行秀求聞持入色有

補 真賴曰入色とハ彩色の剥落したるを後人の加へたるをいふなり

補 同

補 同書云土佐光國求聞持

補 孔雀明王像 一幅

補 東寺寶翰古器目録云古畫孔雀明王像應永元年修覆一幅

補 俱利迦羅不動像

補 倭錦云俱利迦羅不動筆者不定京清水寺什物

桓武天皇御影

嵯峨天皇宸畫延暦寺所傳後陽成帝勅封至今帝

補 同

補 裏書云和州十市郡田原本樂田寺三品庫方永代奉寄進之者也旹文安三年丙寅十月二日桓武天皇宸影巨勢廣貴筆

補 真賴曰天皇御倚子ゐまして玉笏をそち給へる像あり摹本博物館ゐあり

補 黄帝像 三幅

補 倭錦云土佐光起黄帝三幅

補 元三大師像

補 元亨釋書巻四云釋良源姓木津氏近州淺井郡人也母物氏云云藤僕射有三沙門尤所信卿或夢三僧者三光天子也義昭法藏及源三人共正月三日寂又可怪昭藏二師已爲源屈世言源者日天乎源道貌雄毅自把鏡寫照曰置我像之所必辟邪魅

從茲摸印天下爭傳方今人屋間架戸扉之間黏貼殆徧賜諡慈慧

補 真賴曰元三大師亦慈惠大師といふ慈惠大師の像と稱せるそのハ志の部ゐ掲げたり見合せべし

同 三幀

本朝畫史云覺超號阿闍梨公呼謂横川谷元三大師像阿闍梨公呼筆也甚有靈驗或曰號卿公者覺超也則師慈惠

畫工便覽云阿闍梨公不知其名智證弟子善書畫最精佛像有器趣

補 倭錦云山門覺超叡山横川御影堂元三大師生御影ト云

躬行按ふ。元亨釋書巻四云。釋覺超姓巨勢氏。泉州大鳥郡人。幼上叡山。有奇相。出舌過鼻。慈惠見之大驚云。聰明之相。必為國寶。納而為上足。云云皇后有産難。勅超持念。云云徒歩入宮。産誕即平。帝大悦。加僧都。超不受。速出宮。官司逐背後讀詔牒。自是有僧都之名。とあり。又扶桑隱逸傳にも此僧を載たまひ。釋書の文を約畧し。稱曉卒僧都とありて。俱ふ畫事をおこしゝ事ゝ爲ひ。鈴木真年ゞ説ふ。元三大師像筆者。阿闍梨公者謂慈惠大師之弟子。九條右丞相師輔公男。尋禪僧正也。畫中有二侍者。名仙雅聖救。真蹟三禎今在山門。東台。及坂本來迎寺。山門所傳如此。然畫家以覺超為阿闍梨公者甚誤矣。といへり。仍て尊卑分脈を檢るふ。師輔公第十三男。尋禪。天台坐主權僧正。號飯室和尚妙香院。慈惠僧正弟子。正暦元年二月十七日入滅。歳三十八。謚慈忍とのゝ。是も畫事ハ記さまぜ。猶俟後考。但真年ゞ侍者選賀を仙雅とせるハ誤あり。さて元三大師とハ。慈惠僧正をいふとぞ

躬行。再ひ真年ゞ説を按るふ。拾芥抄諸寺部ふ。飯室中納言ハ。九條相國師輔公の孫ふして。伊尹公の五男あり。花山帝ふ隨ひて入道し。名を寂真と改め。飯室。安樂寺ふ隱る。尋禪僧正ハ師輔公十三男ふして。入道と叔姪の親あまバ。又安樂寺ふ住まゝあらん。さて義懷入道の六男。天王

寺別當延圓畫を能せ世ふ繪阿闍梨と稱せ榮華物語鳥辺野ふ飯室阿闍梨と稱せしも此人なら む尋禪僧正を飯室和尚とせしからは彼此あひ混じて真年遂は此説をあちゝとおもはる さらば元三大師像尋禪僧正の筆とをるも信うさく阿闍梨公は延圓をいふあらんか然せども未其証を得ぎ

補 同 一幀

補 所藏者不詳畫工不詳摹本博物館ふあり巨幅なり

補 真賴曰右手ふ珠數をもち左手は獨鈷をもてり左右は兩童子立り畫上は置色紙六枚あり

補 同 一幀

補 養源院藏摹本博物館はあり

補 裏書云此尊像者御自筆真影靈驗無雙之本尊也然間依御信仰令進上禁裏之處也文明九年閏正月日天台座主尊應

補 真賴曰座像ふて右手は珠數を持左手は獨鈷をもてり書上ふ置色紙あり剥落して分明ならぎ

補 熊谷直實法躰像

補 集古十種肖像部云平直實法躰像高野山五大院藏

補 真賴曰座像ふて手ふ珠數をもてり

補 同

補 同書云平直實法體像山城國東山黑谷金戒光明寺藏

補 真賴曰立像ふて手ふ杖ををてり

補 同

補 畫工便覽卷三云熊谷直實姓平氏號蓮生父北條右京亮盛方男武門而事源武衛後拋武名自畫我影收于武州熊谷寺今秘府之承元二年九月十四日於洛下黑谷卒八十三

補 真賴曰熊谷寺の原本を以て寫せる摹本博物館にあり手ふかせ杖ををてり

補 熊谷直之像 一幀

補 嵯峨二尊院藏畫工不詳

補 真賴曰束帶帶劒右手ふ末廣の扇ををてる

熊谷直實法體像
武藏國熊谷寺藏

座像あり。畫上ゝ短冊をおせり。辭世の歌をうけり。おれ世ともとふ人あらでとふべきり嵯峨野ふミヒけておくのふる寺。といふる歌あり。直之ハ豊臣秀次ゝつゝへ人あり。故ありて割腹せこのうたハそのときの歌ありといふ

補 楠正成卿馬上像

補 集古十種 肖像部 云。橘正成卿像。藏未詳

補 真賴曰。甲冑を着したる馬上の像あり。左手ハ弓をとり。直垂及袖印ハ菊水の紋あり

補 楠正成卿像

補 古畫類聚目録云。楠正成畫像。元弘元年奉二後醍醐帝云云。

補 行曰後二條記者後二條關白師通公之記也九代略記ハ日本記略の古名ゝて九代實錄又國史後鈔ともいへり

帝王編年記云。寛平四年九月十日勅令畫師巨勢金岡畫二于御在所南廂東西障子一令直方顯基惟範時平朝臣擇弘仁以

計部

賢聖御障子

建暦御記云。南殿北障子號二賢聖障子一。賢聖畫レ之上色紙形。近代不レ書二本文一。彼等藝能也 注云。按寛平四年九月十五日令レ畫二本朝鴻儒之像一。於御殿南庇東西障子一。延喜六年六月令下小野道風書中殿南庇粉壁於漢書以來賢君名臣德行上。同七年令二同人改書南殿障子賢臣像一云々。見二編年記代畧記等一。九後二條記寛治七年正月十三日。南殿御障子賢聖圖目録卅二人

古今著聞集卷十一云。南殿の賢聖障子ハ。寛平の御ときもしゝめて書ものけるなり。其名臣といふハ。馬周。房玄齡。杜如晦。魏徵。自東一諸葛亮。遽伯玉。張良。第五倫。仝二管仲。鄧禹。子産。蕭何。仝三伊尹。傅説。太公望。

後鴻儒之堪詩者。即
今金岡圖其形狀矣
益軌安畧記為仁和
四年九月十五日午
刻餘
同之
日本紀略云。延長六
年六月廿一日仰少
内記小野道風令書
漢朝以來賢君明臣
德行於清涼殿南廂
粉壁。
同書同七年九月某
日。令少内記小野道
風改書紫宸殿障子
賢臣像先年道風所
書也。帝給御衣香村
像下脫
贊字歟
躬行再按ニ南殿の
賢聖障子ハ寛平四
年或ハ仁和四年金岡をして
弘仁已來能詩の
儒卿を圖せしめら
也。道風朝臣贊辭を
書らせ給ふ。延長七
年漢以來の賢臣の
像ゑ。禁詞ハきよみ
り改らきしゐるべ

仲山甫。（仝四）李勣。虞世南。杜預。張華。（自西四）羊祜。楊雄。陳寔。班固。（仝三）桓榮。鄭玄。蘇武。倪寛。（仝二）董仲舒。文翁。賈誼。叔孫通。（仝一）等也。（已上卅二人）此人々の形をかゝきける。ろの麒麟閣の功臣を圖せらきたる跡をかをれけるまや。初めハ色紙形ゐ。銘をかゝきたりける。きをバ道風朝臣のまうし文ゐも。七さび者ゲせるまし載たり。其銘いつごろよりかゝきぞゐきるまう。當時ハみ延喜。色紙形むりぞ侍るめる。承元ゐ閑院の皇居やけ。即造内裡ありゝるまを。とハ尋常の式の屋ゐ。松殿作らせ給たりけるを。此たび改めて大内ゐ擬して。紫宸。清涼。宜陽。校書殿。弓場。陣。座ゐど。要須の所々。たて添らきゝる。土御門の内裏のかゝりけるとを聞ゑし。地形せを

くもの即こゝを也
又延長六年ゐ中殿
の南廂の粉壁ゐかゝしめ給ひし。賢君
明臣の像ハ其後ハ
世ゐきこえゞ。按ゐ
四禄のゐちゐどゐ
かのづくゝ廢ゝし
成べし

くて紫宸殿の間數をちゝめらきゝる時。賢臣の影もちひさくちゝめらきゐけり。建長造内裏のとき。少々まゝ用捨せらきゝける。くもしく尋ねて注をべし。大内ゐてゐ此障子をゐち置きて。公事の時むゝりぞ立らきゝる御秘藏の儀ゐて侍りゝるまや。建暦ゐ閑院ゐうつさきて後ハをべてとりもゐるゝこゝとゐし

補 大内裏圖攷證卷十上賢聖障子之條云。按古粉本今傳世者有。馬周。房玄齡。杜如晦等圖。圖上記小傳所謂銘者即是矣。又有魏徵。諸葛亮。蘧伯玉。三圖。此圖亦傳世稱賢聖障子。粉本非是也。此三像者大學寮九哲中之圖也

本朝畫史云。金岡云。皇居南庇東西障子。作歷代

鴻儒像。所謂紫宸殿賢聖像是也。躬行云。鴻儒像者寛平四年始所畫。賢臣像者延長七年所改造固不同。以鴻儒像相混於賢臣像者非也。金岡始畫之。小野道風書其賛詞。其後數百年來當時繪所預畫之。或一時有名畫史應詔者至今不絶。當其撰者爲畫家之榮焉。賛詞又如是。雖然賛詞不傳。金岡所圖古像之粉本十二人者。余家世所藏也。最有銘存于今惜哉此外之像不相傳只使當時能書搢紳書名於其上。多世尊寺家書之。近世持明院家獨掌此事。躬行曰賛詞全存于今

同書云。有房姓氏未詳。爲繪所預加賀權守。建長造内裏時。應詔欲畫之。然無舊本。自鴨居殿御倉出金岡繪本傳有房

好古小録云。賢聖障子粉本。畫者姓名不傳。但正和前粉本也繪所預家ニ傳ル所馬房魏社四人ノ粉本也。按ニ土佐家傳ニ刑部大輔吉光正和中。南殿障子畫賢聖ト。此等ノ粉本今不傳可惜

皇朝名畫拾彙云。經隆建長中畫南殿障子。

土佐系圖云。經隆從五位下中務大輔土佐權守初名有房。建長中南殿障子畫賢聖。其圖傳寫在家

補古畫目録云。賢聖障子粉本。在土佐家三枚。正和中以前之摹也。今所傳馬周房玄齡魏徵杜如晦四人之粉本也

補土佐系圖云。吉光頭注云。正和年中南殿障子畫賢聖

補又云。土佐家古來所傳賢聖障子粉本。人形二アリ。至テ古物ナリ。正和中ヨリ已前ノ圖ナリ

倭錦云。經隆賢聖像殘闕。又云賢聖障子。寛平中金

岡草創。色紙形道風朝臣。建長中經隆。正和中吉光。
寛文中守信。延寶中安信。寶永中常信。寛政中廣行。
安政中弘貫脩補

躬行云。土佐權守經隆ハ。中務少輔隆親の男ホ
しく。建長中の人あらぞ。且有房とハ別人なる
よしどる。已ホ荒海御障子の所なりへり。土佐
系圖已下。附會の説なる事論なし。まさ此賢聖
御障子ハ。延喜七年ホ改め畫けるホて。寛平
の鴻儒像ホ同じからぞ。畫史等悉誤おるし。據
とるし難し。因云。金岡ハ巨勢系圖ホ。從五位下
米女正。元隼人正とみえて。さらに異論なきを。
本朝畫史ホ。中納言巨勢野足子。仕清和。陽成。光
孝。宇多。醍醐。五朝。官至大納言と記せるを何事

ぞも公卿補任を檢もるホ。金岡を不載。野足卿
ハ。左中辨苗麿朝臣子。弘仁七年十二月十四日
六十八歳薨とあるをバ。醍醐の御代を盛なりし
金岡ハ。いたく時代後をて相かなをぞ。大納言
あらぬ証ハ。補任系譜ホミえぬうへに。其子相
覽を從八位下讃岐少目と。大間成文抄。花鳥餘
情等ホのせて。既ホ畫史ホも引出たり。選叙令
ホ。三位蔭嫡子從六位上。庶子從六位下とある。
大納言ハ相當正三位なり。父三位ホして。其子
從八位下なる事あらんや。抑此大納言の事ハ
畫巧便覽。高名録。近世の倭錦ホも載て。世人の
まどふ事なるをバ。殊さらに識しかくも。然ある
ホ谷川士清ゲ和訓栞に。巨勢金岡ハ大納言な

り。仁明帝の時の人。清涼殿ゑ繪をかきたり。紀金岡ハ朝日阿闍梨と稱し。彩畫の妙手。後宇多帝の時の人。狩野岡ハ佛像の妙手。後冷泉帝の時の人。此三人まぎれ易しと記したることをこゝろりゝを。金岡大約言あらぬ証ハ。已まいひつ。且宇多醍醐の御代を經し人ゑて。仁明朝の人あらぜ。朝日阿闍梨圓深ハ。寛印供奉の二男ゑして。後一條帝の。寛仁頃の人ゑ歩バ。後宇多の御代ゑハ。稍二百五十年のむかしあり。狩野岡ハ。金岡の轉訛ゑして。素より其人ありしゑハあらぬを。まちやりゑ時代をさへゑ推當たることそ。あやしき限ゑりゝを。さるを名畫拾彙ゑ畫巧便覽ゑよりて。狩野岡其子永意といふをさへ加へ載たるハ。是もまゝ成德ともかぼゆ。失錯ゑりゝし

補 真賴曰。賢聖障子の圖。年中行事畫卷中ゑ見ゆたり。障子一枚ゑ。四人立の圖ゑり

同裏繪

建曆御記云。此障子裏方畫唐華。御帳間戸畫獅子狛犬。障子上畫負書之龜本文。心障子戸三也

賢聖御屏風

補 江談抄卷二云。故右大辨時範談曰。諸御屏風等有其數。所謂漢書。打毬。坤元録。變相圖。賢聖。山水等御屏風之類是也。隨時立之

元文大嘗會御調度圖　三卷

住吉家粉本云。大嘗會悠紀。主基御節會下繪。上中下

元文三戊午年九月二日御用奉住吉内記廣守

同鮮味圖　一巻

御厨子所預紀宗直朝臣所造也

悠記方雉付紅梅造枝　鶉付萩造枝　主基方鴨付楓造枝　籠物納打栗付

松造枝

撿非違使并撿斷繪

看聞御記云永享六年十月廿五日自内裡繪六巻

被下云云撿非違使撿斷等繪也

賢聖瓢繪

法隆寺所傳七種寶物之一瓢上有孔子榮啓期四皓鬼谷

子蘇秦張儀像各書名

柳菴隨筆云孔像の舊きをの是ハ過たるハなし

道の幸法隆寺條云賢聖瓢まさ初笑のひさごといふ

補

校書殿養由基射猿御障子

補古今著聞集巻十一云校書殿ハハ養由基ガ猿

を射たる障子を寄立たりこれをあいづをの御

時よりといふ事をもらぜ由緒のたゞしおぼつ

かなし閑院ハ大内をうつさをて後よせ馬の障

子并ハ李將軍養由ガ障子ハど沙汰ありける

を四條の院御時西園寺相國禪門修理せらをけ

る時頭中將資季朝臣申起て立らをたりいと興

有事也此障子の繪本其鴨居殿の御倉ゐぞ侍ゐ

る建長造内裏のとき繪所の預前の加賀守有房

繪本をもたざりゝをバ取出してかゝをけり

玄宗皇帝繪　一名安祿山合戰繪又長恨歌繪　六巻

玉海云沿承三年九月四日臨晩特自内預賜玄宗

大日本史列傳云藤原通憲文章博士實兼子也長門守高階經敏子養之歷事鳥羽崇德近衛三朝叙正五位下云云天養元年遠任少納言無何雜髮更名圓空又改信西

皇帝繪六卷爲令一見也六日旦返上玄宗皇帝繪

使治部大輔季信

同書云建久二年十一月五日抑長恨歌繪相具天有一紙之反古披見之處通憲法師自筆也文章可褒美義理悉顯感歎之餘寫留之其狀云唐玄宗皇帝者近世之賢主也而慎其始棄其終雖有泰山之封禪不免蜀都之蒙塵今引數家之唐書唐曆唐記楊妃内外傳勘其行事彰於畫圖伏望後代聖帝明王披此圖慎政教之得失又有厭離穢土之志必見此繪福貴不常榮樂如夢以之可知歟以此圖永施入寶蓮華院了于時平治元年十一月十五日彌陀利生之日也沙彌押此圖爲悟君心豫察信賴之亂所畫彰也當時之規模後代之美談者也末代之才子誰比信西哉可感可褒而已

花鳥餘情卷一云長恨歌の繪ハ亭子院の御時かうせたまへるよしみゑ侍もど其繪とて末のよふ傳たりさる事も侍らぞ然るを通憲法師法名信西唐書唐曆楊妃外傳をどいふ書をうむがへてあさらしく繪ふかきしをぞ今の世ふハ長恨歌の畫とハ申たべる是ハ平治の亂ゝあるべき事をかゞミて後白河院ふ御心をつけまをさんためふ思くたゞて侍るとぞ案のごとく安祿山うやうある信賴ゞふるまひためしをくあらりける事也其繪ハ平治元年十一月十五日ゟ寶蓮華院ふ施入したべるとて信西一紙をうきそへくおきさるよし舊記ゟ載たべり

貫雄曰此繪不傳于後世法眼如慶此故事を扇面ゐ畫くもの弱冠光陳と名のる頃の作ゐして世上ゐ見ゆ

補 真頼曰ちノ部長恨歌繪の條此の條ゐ見合もべし

玄宗花軍繪　一卷

清原雪信女畫之

源氏物語繪　十卷

古今著聞集卷十一云天福元年のたるの頃院藻壁門院の方をとのちて繪はくの貝覆ありけり云々先女院ゐ御方負させたまひて源氏繪十卷だをとる料紙ゐ書て色々のをきしゐ詞りゝをとり能書の聞ゑある人々ぞうゝれとるからの韓櫃ふゐん入らをとりける

補 明月記云貞永二年三月廿日日來撰出物語月次十二月五呼不入源氏并狹衣於歌技群他事雖不可然源氏當時中宮故新圖狹衣又院御方別被書云々

本朝畫史云藻壁門院尊子道家公女後堀河帝后性好畫圖曾畫源氏物語故事則載于定家卿照光記

同　二卷

伊豫守隆成畫之

躬行曰隆成ハ地下傳土佐系圖等ゐ越前守光顯弟或云觀應中の人

補 真頼曰博物館ゐ卷名詳ゐらざる繪卷物一卷あり詞書ゐし表氏ゐ記して云く高島千載云隆成源氏是あり と見ゑたりさをど其然る

や否やをあらゝび

補 同　三巻

補 倭錦云隆能源氏小巻物詞世尊寺伊房卿牛庵

極

躬行曰伊房卿權中納言正二位永長元年九月十九日薨六十七才と世尊寺系譜ゐミゆ隆能ハ嘉承頃の人ゐをバ時世相ゝるへり但手蔵やとり木東屋一巻柏木横笛一巻尾州家藏夕霧をゝむし御法一巻躬行藏

補 貫雄曰畫圖品類ゐ源氏十五段繪詞一巻とありて畫圖筆者姓名を不注もの或ハ此巻を云ゐらむ

補 真頼曰博物館ゐ藏をる所の摸本四巻あり

その筥の蓋ゐ書して云ハく尾州館藏二巻阿州侯藏一巻古摹本一巻とあり而して古摹本と稱をる巻の奥書ゐ云をく源氏物語古畫松山藏云々以白川文庫摹本文政六年三月上旬摹之晴川法眼と見ゑたり

補 又曰此の繪尾州家ゐあるゐものハ柏木横笛早蕨宿木おづま屋の巻阿州家ゐあるものハ夕霧鈴虫御法也松山家ゐあるゐものハ鈴虫御法ゐて阿州家のをうつせる摹本ゐり

補 又曰明治十四年九月博物局ゐて徳川慶勝より此の繪巻をのるをべて三巻ありこのうち二巻ハ博物館ゐも摹本ゐり尾州館藏二巻とあるもの是ゐり其一巻ハ世の人もえをら

源氏物語繪　德川義禮藏

ぬものあり。さきとこきもまこおゐ〳〵源氏物語の殘缺ゐて。二卷のものと同物ゐり。但し詞書筆者ハ雅經卿とあり。尾州家ゐてハさえらりのもれとかもなぞりしゐやあらん。此の一卷ハ箱ゐどもいと粗ゐて。二卷のもれとハ異物ゐるやうゐて。藏せらきたり

補 又曰。德川慶勝藏二卷のものハ。畫ハ隆親。詞書ハ寂蓮とあり。さるハ寛政十一年八月住吉廣行の鑑定書ゐ。源氏物語之内殘缺十段二卷中務少輔隆親真筆無疑者也。とあるゐよきていふゐり。さきど倭錦ゐハ。隆能とせり。いはきり是ゐらん

補同

補 倭錦云。光正源氏小人物卷物

補同 一卷

補 土佐系圖云。越前守光正云云頭注云。八曲屏風一雙。源氏畫粉本一卷乙未十一月展玩

補 古畫目錄云。八曲屏風源氏繪繪本一卷。後五位下越前守光正

補 元幹曰。洛東真如堂別當上乘院藏。源氏繪四尺屏風二帖。元古土左筆云々源應舉呼寫 調度人物面白物也。蓋以此屏風呼寫歟入道大納言公明卿為遺物呼納云云

補同

補 土佐系圖云。左近將監光元云云。頭注云源氏畫中彩色。五尺六曲屏風一雙。丙申十二月廿二日展翫

補 同

補 畫工便覽卷四云花園宰相實滿好圖畫作雜畫其花草設色及圖源氏物語於咫尺紙上雖筆法无動起有功點筆遲云云寛平年中卒

補 同

補 同書云池田重頼室者小堀政之娘圖源氏物語呀々於咫尺紙上有清趣奇哉

補 同

補 同書卷五云光信女善畫咫尺紙上畫源氏物語内須磨卷花宴花散里最學夫筆風无動勢唯要美細亦作草花秀潤也是古法眼元信室

補 本朝畫史卷四云婦人土佐氏光茂之女而狩野元信妻也善倭畫每為源氏故實儼有父家風至其為草花水石則倣元信

補 同

補 同書云休欲土佐光持弟子住泉堺克畫源氏物語卷小畫而已无活動要美細慶長年中卒

補 同

補 倭錦云住吉如慶源氏物語數品

補 同

補 同書云土佐光秀墨畫源氏細畫

補 源氏物語あふひの巻の畫

補 土佐系圖云刑部少輔光信云云頭注云源氏物語葵車爭六曲屏風粉本一雙内一隻光茂筆

補 源氏物語藤のうら葉の巻の繪屏風

補 倭錦云春日行秀源氏藤裏葉二枚折屏風

補源氏物語真木柱の巻の繪

補太平記巻十八云一宮云云ある時關白左大臣の家ゐてなま上達部殿上人あまたあつまりて繪合のありけるゐ洞院左大將の出させたりゐる繪ゐ源氏のうたそくの宮の御むもめ少まき柱ゐ居ゐくせてひをちらべ給ひしゐ雲かくせしたる月の俄ゐいとあゐくさし出たまばあふきならでもまねくべゐりけりとてむちをあけて指のぞきたるゐほつきいをしくらうたけてゐやゐある氣色いふもありあく筆をはくしてぞかきたりける一の宮此の繪を御覽せらせてかきりあく御心ゐこゐりけせハ此の繪をあたらくめしおゐせ見るゐなぐさむ方もやと

て巻返ししこゝ御覽ぜらるゝとゝ御心更ゐあぐさまじ

源氏物語若紫の巻の繪　殘闕

春日光長畫

貫雄曰原屏風ゐ畫く處ゐ今色紙とあして分散せり

補真頼曰この色紙形方今博物館ゐ藏せり源氏の君と僧都との圖あり但し住吉廣行の筥書ゐハ土佐備後守光國とあり

同筆木の巻の繪

刑部大輔光茂（雨夜物語　木枯女）圖屏風二帖

補源氏物語蘆手書草子

補倭錦云土佐光正源氏蘆手書草子

補 源氏物語五十四帖表紙繪

補 同書云土佐光信源氏物語本五十四帖表紙繪
外題後柏原院詞堂上寄合

補 同

補 同書云土佐光久源氏本表紙

補 源氏物語大小色紙繪

補 同書云土佐光信源氏色紙大小

補 源氏物語繪色紙

補 同書云土佐光茂源氏色紙

補 源氏物語繪屏風

補 同書云土佐光信大繪源氏屏風十雙畫ク依二東
山殿命

補 源氏物語五十四帖色紙繪

補 同書云土佐光元源氏五十四帖色紙

補 源氏物語五十四帖の繪の屏風

補 同書云土佐光久源氏五十四帖屏風題紙四季
草花光茂筆

補 源氏物語五十四帖の繪の小扇面

補 同書云土佐光則源氏小扇面五十四枚ウラニ
印アリ

補 源氏物語の繪屏風

補 圖畫一覽上巻云源氏物語圖屏風二帖光起筆
粉本比二于前本光正所畫甚劣

補 春村曰源氏物語圖屏風二帖光起筆彼家有二
源氏供養繪詞 一巻
書畫筆者未レ詳

躬行按ずこハ安居院聖覺法印源氏供養諷誦文記ゟ繪を加へさるものゝて。いと古ゝらぬゝゝ。此文湖月抄まさ羣書類從第三百十三ゟいまり。猶古物語類字抄ゟつまひらゝゝり

元亨合戰繪圖　二卷

書畫筆者未詳。山城國笠置山福壽院藏

華嚴緣起　六卷

古畫類聚目録云。鳥羽僧正筆。栂尾高山寺藏

寺社寶物展閲目録高山寺條云。土佐光信筆華嚴緣起六軸。光信よりハ時代古く見ゆ。最能畫也

補古畫目録云。華嚴緣起六卷。寺僧曰。光信恐非光信。時代ハ光信ヨリ古キ歟

道の幸高山寺條云。華嚴緣起六卷。詞ハ宸翰。繪ハ光信といふ

倭錦云。栂尾華嚴緣起六幅。筆者未定

日次記事六月廿二日栂尾寶物虫拂條云。土佐家所畫。華嚴大師緣起云云

躬行曰。此卷本寺華嚴宗祖師繪傳と稱し。畫信實朝臣。詞明惠上人。仁和寺准后法尊。光明峯寺關白道家公といへり

補貫雄曰。此繪光信ハ誤あり。畫風を以て考るゝゝ光長ゝ似ゝり。或云畫信實朝臣。詞岡屋關白兼經公

補真頼曰。華嚴緣起ハ。華嚴祖師繪傳ともいへり。そゝハ八卷のものありしを。二卷紛失して。六卷となるもゝあり。其の故ハこの繪卷の

華嚴緣起
栂尾高山寺藏

添書ふ云もく華嚴祖師繪傳六卷御詞梅尾上人繪信實朝臣御書光明峯寺殿道家公岡屋殿兼經公（助筆北山殿公經公）開田御室法助（峯殿御子也）此内法を敬重し云云開田御室御筆夜もでゐあけて云云同御筆新羅國大王云云峯殿御筆義湘の舟もぐゐ唐ゐ入云云岡屋殿兼經公もでゐ新羅ゐいさりて大師云云同御筆（助筆公經公）右八卷之内二卷散亂元和二年七月改定菊淵俊怡と見ゑさるゐてゐるべし

補又曰此の畫卷を明治十六年四月博物局ゐて修繕せしゐ裏打の中より古き裏打紙いでたり記文あり其文ゐ云もく華嚴宗祖師義湘大師繪四局明惠上人繪三局元曉大師繪二局

以上九局獸物繪上中下同類局二局（開田殿□□□都）合十一卷本是高山寺東經藏之具也先年兵亂之時足輕共執散爲彼兵火所々燒失了然坊人共拾集之間此坊取置也寺家有再興之時節可令奉納彼藏也後世留守門人可得其意不可存私仍記置之也時元龜庚午七月廿一日□僧□性□と見ゑたり因て按ぜるゐ卷中ゐ焦ゑさるところどころ見ゆなるハ兵火の災ゐ罹ゑるゐり

解脫明惠緣起　一卷

皇朝名畫拾彙云有家畫解脫明惠緣起一卷詞書冷泉爲相卿筆（好古小録同之）倭錦云姉小路長章明惠上人解脫上人緣起

躬行曰中納言爲相卿嘉曆三年七月十七日鎌倉ふ薨せらる有家ハ顯文抄ふ明月記ふよる建暦中の人ともるよよ世ハ百年ふ餘りて古き人あり倭錦ハ巨勢光康男元亨中の人とせり さらバ爲相卿と時世あへりそいふべし 長章ハ同書ハ越前守長隆の男とも世ども詳ならぜ

教信寺縁起

畫工便覽云藤光定官大納言不知何許人善畫圖筆力佳作和州教信寺縁起筆與官名

皇朝名畫拾彙云藤原光定善圖繪康平中畫和州教信寺縁起時爲大納言見其奥書按公卿補任康平之時無光定者嘉平年間有光定任參議豈其人耶

躬行曰養德錦顯文抄ふ云嘉平といへる年號ある事ゐけ世バ嘉元の誤ならんといへり又云光定卿ハ參議定藤卿男參議從三位治部卿嘉元三年七月三日薨三十二とあり

補 下戸上戸繪

補 真頼曰原本所在をしらぜ粉本博物館ふあり題箋ふ記して云ちく下戸上戸物語一卷古法眼と見ゑたりうたゲひるきものあるべし

補 又曰下戸上戸繪詞ハ三論繪と同物ふて畫工の異なるあり三論繪の條あをせ見るべし

夾纈及臈纈畫屏風

在東大寺正倉院中 十二扇

躬行曰。こハ前ふいへるごとく。獻物帳ある麟鹿草木夾纈屏風。鳥木石夾纈屏風。山水夾纈屏風等の殘闕あり。此のうち麟鹿屏風の畫の下ふ。天平勝寶三年十月の文字横さまにかきたるは殘さるハ。初め帛ゟ記しゝ銘あり。按ゟ纈纈ハゆたゞ。所謂くゝり染なゞ。いゐしへハいと巧みなりき。臈纈ハ布帛ゟ白臈を蕩(トカ)して。其文様を畫き。彩色を加へて後ゟ。沸湯を沃(ソヽ)ぎて臈を脱したる也。或ハ白文ゐして臈を脱してのちふ。着色せりとみゆるもあり。まゝ地一色あるハ村濃等ふて。文様白く。さながら彩色を加へぬもみゆゝり。是ハ着色をとむるわざゟ知さバいまも出來るゐり。頃日製し試ゝたるふいとよくゐさりき

補 真頼曰。東大寺正倉院中ゟある。夾纈及臈纈の御屏風ハ。其數廿扇あり。其内夾纈屏風十六扇。臈纈屏風四扇ゐり。其臈纈屏風ハ。地色ハ皆褐色ゐり

源平合戰屏風　二帖

笈埃隨筆云。誓願寺藏。源平合戰屏風。凱歌屏風と

鵜を（但不レ錄レ畫エ）

寺社寶物展閲目錄（誓願寺條）云。右京進光信筆。八島屏風一雙（難レ心得もの也）

現存詩歌屏風繪

皇朝名畫拾彙云。伊信云云。現存詩歌屏風跋曰。此詩歌者建治二年春閏三月。關東相州時宗所レ被レ結

講云。吳風詩謌圖。作者伊信入道。詩者藤中納言資宣撰之。歌者右大辨入道真觀撰之也。以當世能書令書色紙形畢

躬行曰。藤伊信入道ハ為繼卿之子。信實朝臣之孫。真觀者藤光俊卿之法名也

補 建治帝宸翰料紙下繪

補 本朝畫圖品目云。建治帝宸翰料紙下繪

補 真賴曰。建治帝ハ後宇多天皇ゐり

玄上御琵琶撥面の繪

撥面畫打毬者一人

建暦御記云。累代寶物也。置中殿御厨子。根元樣人不知之。掃部頭貞敏渡唐之時。所渡琵琶二面。其一歟。紫檀直甲也。此琵琶霊驗。内裏燒亡之時飛出。撥面文消所々有赤色。不知其繪。代々有沙汰。未決。後房云。良道琵琶移玄上。彼撥面文不可違。彼唐人打球形也

古事談云。玄上撥面繪事。師時卿記云。打毬之唐人二騎歟。是左府仰也云云

補 古今著聞集卷十一云。玄象撥面の繪ハ消て久しく成ぬ。ゆゑ人あり。二條殿教通公仰らゐけるハ。玄上のたち面の繪やうハ。馬上ゐて打球のもの。腰ゐ杖をさして。舞ゐる姿也。良道ゞ撥めんハ。件の繪を摸してかゝゐとゐるん。此事師時卿記しおき侍りしゐあるを。良道ゞ撥面當時其儀ゐし。ゑし書あらゐめらゐたるゐや。當時の繪樣ハ。あげまきの童子。龍ゐのりて水瓶をも

ちて瓶より水をゝぶしたるを書たるゝり

躬行曰此御琵琶の名建暦御記ゝ玄上宰相獻延喜帝仍號玄上と記し給へるを本説とをべし抑此撥面の繪樣もろこしの樂書何くさの書等且上件の御記の一説ゝも玄象飲青鉢水故號玄象とあるハ其畫消失てのち玄上を玄象と誤りし文字ゝよりて強ちに構へたる空説ゝてまことハ俊房公の説のごとく唐人打球圖といふぞ正しくゝりける今現ゝ傳たる嚴島社の神寶谷川のびたハ弘長中に摹せるよし作者唯念ゞ記文ありそれも欄干のもとゝ球杖をもたる者ひとりを畫ゝり時代ハ少し後世とは見どこをもゝ據とをべくや此御琵琶

さたゝりの寶物ゝりしを今ハゝりとも聞ぬ世の末こそおそましけれ因云體源抄ゝ琵琶撥面ゝハ必から繪をゝく天地人と書べし天ゝハ月霞鳥人ゝハ胡人地ゝハ石水草木とみゆ古き撥面の繪ゝるらむこのくのミあらねど畫ゝく人々ハ心得おきてあらむや

補 真頼曰嚴島圖繪卷六ゝも撥面の畫ハ唐人打球の圖ゝりといへり予真物を見るに唐人打球の圖とハ見をゝ走り舞の圖のやうゝり人物も一人ゝり舞臺の上に松ゝり

補 劔平緒の畫樣

補 長秋記云大治五年正月十一日召信茂頼俊令畫劔平緒繪樣依院召其責尤甚

競馬圖　殘缺

同書云土佐隆兼競馬殘缺

補　躬行曰絹本一番杉浦左衛門尉藏

同

好古小録云競馬圖粉本殘缺畫工姓名不傳

本朝畫圖品目云競馬圖十二枚畫者不傳

補　圖畫一覽上卷云詞ナシ末ニ相撲ノ圖アリ正六位下内匠大允光貞奥書ノ本ヲミルニ光弘ノ相撲ノ圖ト大同小異ナリ

補　同

補　古畫目録云競馬圖住吉法眼筆内記藏

補　真賴曰住吉法眼ハ慶恩ありまゝ内記とおるハ住吉内記ゐるべし

補　同　一卷

補　舊幕府所藏

補　真賴曰競馬圖一卷摹本博物館ゐあり卷尾云右競馬圖拔寫一卷御城御繪部御繪本ゐ有之筆者申傳ナシ余拜借シテ文政十二年秋頃弟子新井晴峯ゐ寫サシムル所也養信花押と見ゑたり

元服圖　一卷

畫工未詳

見聞諸家紋帳　一冊

奥書云足利將軍時代於于評定所改之悉次第不同書顯于此

佐々木本奥書云八文八年卯月卜九日佐々木秀

勝押

躬行曰有羣書類從第四百廿四諸家紋帳一冊

補元幹曰見聞諸家紋又諸家紋帳トモイフ室町家ノトキ一族以下武家ノ紋ヲ畫キシモノ也畫ニアラネドモシバラク載ス羣書類從ニモ收メタリ

華嚴釋迦像　一幀

寺社寶物展閲目録云宅間法眼筆高山寺藏

玄奘三藏像　一幀

倭錦云小川僧正玄奘三藏

補顯尊和尚像

補集古十種（出保新）云顯尊和尚像久米寺藏

補解脱上人像　一幀

補京師實法院藏畫工不詳贊辭南都安位寺殿經覺筆

補真賴曰坐像ホて前はゝせ杖と草履とあり畫上ホ置色紙ありて贊辭を書き貞慶上人姓者藤氏左大臣武智丸十五世之苗孫云々の百有餘字あり

源三位賴政卿像　一幀

右京大夫隆信朝臣筆絹本高尾神護寺藏

補袈裟御前像

補源平盛衰記卷十九（文覺發心の條）云文覺道心の起ヲ尋ヌレバ女故ナリケリ云カヽリシカバ智者ニナリ盛阿彌陀佛ヲ改メテ文覺ト云利根聰明ニシテ有驗世ニ勝タリサル知法効驗ノ時マデ

源三位頼政卿像
高尾神護寺藏

モ昔ノ女袈裟御前ノ事思出シ。常ハ衣ノ袖ヲ絞をいふ
リケリ。若シヤ慰トテ彼ノ女ノ影ヲ寫シ本尊ト
共ニ頸ニ懸テ。戀シキニモ是ヲ見。悲シキニモ是
ヲ吊ケルコソ。責テノ事ト哀ナレ

補 玄翁禪師像　一幀

補 鎌倉海藏寺藏絹本。寺傳云。自畫自讃

増補考古畫譜巻四 終